

【草花の部屋】

ニューサイラン (キジカクシ科フォルミウム属 *Phormium tenax*)

和名：ニューサイラン **別名**：マオラン、フォルミウム

英名：New zealand flax、New zealand hemp

キジカクシ目 常緑多年草 **原産地**：ニュージーランド

花言葉：素直 **花色**：赤、橙、黄緑



←\ 写真-1、2 ニューサイラン
撮影日：2016年06月01日
撮影場所：
モンサンミッシェル(フランス)
対岸のホテルにて
撮影者：M さん



← 写真-3 ニューサイラン
撮影日：2019年04月12日
撮影場所：神戸ハーブ園にて
撮影者：M さん

モンサンミッシェル対岸のホテルに宿泊した際、ホテル入り口で見かけました。後日、六甲山山麓にある、神戸ハーブ園を訪れた際にも園内で見かけました。

ニューサイランは、狭義にはフォルミウム・テナックス (*Phormium tenax*) のことですが、同属のフォルミウム・クッキアナム (*P. cookianum*) と、両者の交配種も含めてニューサイランと呼ばれているそうです。背丈は 60～300cm ほどで、細く鋭い葉を放射状に伸ばします。寒さに強く、常緑性のため、丈夫な観葉植物として人気があるそうです。葉の色も多彩で、ライムグリーンや深緑、シルバークリーン、銅、赤色などがあるそうです。

夏になると、株の間から長い茎を伸ばし、赤や橙の花を咲かせるそうですが、40 年に一度しか咲かないと言われるほど珍しく、めったに見かけることはないそうです。

葉から繊維を採り、織物やマット、漁網をつくるほか、根を焼いてすりつぶしてシップ剤にしたり、花茎でいかだを組んだり、花から蜜を採るなど、非常に有用な植物で、原産地のニュージーランドでは経済を支える重要作物となっているそうです。

日本には元々、繊維を取る目的で輸入されたそうで、漢字では新西蘭または入才蘭と書き、ほかにもマオラン(真麻蘭)やニュージーランド麻など様々な呼び方があるそうです。また、学名のフォルミウム(フォーミウム)で流通している場合もあるそうです。

日本では、草姿が美しいので園芸植物として庭園などで観賞するほか、葉を折り曲げたり、裂いたりしてアレンジしやすいことから、生け花やフラワーアレンジメントなどに利用することが多いそうです。